

# ワークショップ「河川環境目標への科学的アプローチは可能か —考え方と実際—」開催報告

研究第四部 研究員 楯 慎一郎



2005年6月7日、上記ワークショップが河川環境目標検討委員会主催、応用生態工学会共催、国土交通省後援のもと、東京都台東区上野の鈴乃屋ホールにおいて開催されました。200名の定員に対し、参加申し込み希望者数が400名を超え、大変な盛況を頂きました。

本ワークショップは、河川環境を評価する手法について、国内外の文献等を整理するとともに、実河川での事例研究等を分析・検討し、河川環境の目標を考える道筋を明らかにすることにより、河川整備基本方針等を策定するにあたって参考となる情報を提供することを目的として設立された河川環境目標検討委員会が主催となって行われました。

今回のワークショップの開催にあたっては、これまでの委員会における検討を踏まえ、河川生態系の現状をどのように評価したらよいか、そこから河川環境目標へはどのようにアプローチすればよいかなどについて議論を行い、今後の研究や河川管理などにおける方向性を見出すことをねらいとしました。

## ●プログラム（敬称略）

### ～口頭発表～

環境目標についての議論の行く末（趣旨説明に代えて）

山階鳥類研究所長 山岸 哲

河川環境の健全性評価—River Habitat Surveyの紹介—

島根大学教授 國井 秀伸

河川環境目標と達成手法—豪州の事例を踏まえて—

九州大学教授 楠田 哲也

階層的河川環境評価の考え方

北海道大学教授 中村 太士

土砂動態の視点からの河川生態系保全の指標と目標

名古屋大学教授 辻本 哲郎

魚類の生息環境として好ましい河川のあり方

岐阜経済大学教授 森 誠一

河川ベントスの食物網構造と環境目標

大阪府立大学教授 谷田 一三

河川事業における環境目標とその評価～事例を通して

九州大学教授 島谷 幸宏

## ～討 論～

コーディネーター：山岸 哲

パネラー：応用生態工学会長 廣瀬 利雄

中央大学教授 福岡 捷二

国土技術政策総合研究所室長 藤田 光一

口頭発表では、先生方のそれぞれの研究活動を通して、わが国における河川環境目標を検討する上で重要な考え方や手法、着目すべき海外の事例、および現状の目標設定の方法などについてご講演頂きました。

プログラム後半の討論では、山岸先生の進行のもと、各パネラーの

環境目標に対する考え方が述べられた後、講演者やパネラーに対する様々な質疑応答や意見交換が行われ、会場の皆様には熱心に討論して頂くことができました。最後は「河川環境目標についてはまだ議論の段階であり、このワークショップは明日の河川環境目標を考えるための糧にさせていただきたい」との山岸先生の言葉で締めくくられ、本ワークショップは盛況のうちに閉会することができました。

事務局を務めております（財）リバーフロント整備センターにおきましても、今後、河川環境目標検討委員会が実り多きものになりますよう、そして、数年後にはさらに内容の進んだワークショップを開催できるよう、尽力して参りたいと考えています。

最後になりましたが、せっかくお申し込みを頂いたにもかかわらず、会場の都合でご参加のお断りを申し上げた方々には、大変申し訳ありませんでした。この場を借りて、お詫び申し上げます。

